

ザ・クインテッセンス／2012. 5月号

○明度コントロールから理解する前歯部コンポジットレジン修復

第3回 Ⅲ級およびⅣ級窩洞のCR選択の指標(青島徹兄)

*前歯部CR修復において臨床上也っとも頻度の高いⅢ級窩洞、Ⅳ級窩洞における明度を考慮したCRの選択基準について、筆者の考え・術式を詳細に述べられている。臨床上的具体的なテクニックや用いる器具・材料なども示されており、明日からの診療に役立つであろう。

○特別連載 How to Retreatment 外科的歯内療法の実践とテクニックを学ぶ(後編)(寺内吉雄)

*前号では、前半部分である①CBCTによる診査診断、②感染部にアクセスする際の留意点、③麻酔、④切開・フラップ剥離までの解説があり、今号では、その後半部分にあたる、⑤硬組織の取り扱い、⑥根尖切除、⑦逆根管形成・充填、⑧外科的歯内療法とGTR、⑨縫合までを用いられる器具やmm単位まで詳細に示された図で詳細に手順を解説している。さらに意図的再植法のポイントや歯根周囲外科の臨床例を多数供覧している。前号とあわせて外科的歯内療法のすべてが網羅されており、保存版として参考書になるレベルである。

日本歯科評論／2012. 5月号

○特集／インプラント治療の術後評価における新たな取り組み(景山正登 宗像源博 他)

*インプラントが治療法の一つとして確立されてかなりたちました。それにともないインプラント周囲炎などトラブルが起こるケースも増えてきました。しかしインプラント周囲組織の診断方法やトラブルの対処方法は完全に確立されているとはいえません。本特集では現時点でのインプラント周囲組織の診断と治療方法の問題点を検証したうえで、今後への取り組みを考察しています。

○口腔カンジダ症の治療戦略・イソジン含漱の有用性(寺井陽彦、植野高章 他)

*イソジンは一般に含漱剤として広く使われていて、その殺菌能力は高いものです。そのイソジンの原液を15~30倍に薄め30秒以上1分以内で含漱(がんかん)するとカンジダ症に効果があったそうです。(含漱とは薬液を口に含む、ないしは軽くくゆらせること)安価で簡単な治療法なので試してみる価値はありそうです。

デンタルダイヤモンド／2012. 5月号

○実践歯学ライブラリー／デンタルエマージェンシー

開業医のための医療安全対策と救急処置(山口秀紀 中島丘)

*高齢社会が加速するなか、何らかの基礎疾患を有する患者が歯科医院を受診する機会は増え、また、その疾患に対する薬剤を服用している患者を治療する場合に、薬の種類によっては注意が必要な場合も多い。本特集では、そのような場合に備え、歯科治療中に起こり得る全身的偶発症の種類、その発生頻度、その概要および基本対応について解説している。また、医療安全について歯科医院内での体制作り、地域医療との連携の必要性についても、述べている。

○顎関節と咬合に強くなろう—毎日の臨床が楽しくなる⑤

クラウン・ブリッジ(有歯顎)の咬合 ポイント2

—アンテリアガイダンスの的確な構成基準とは(小出馨 他)

*下顎運動をガイドするのは、左右の顎関節によるポステリアガイダンスと上下顎歯列によるアンテリアガイダンスであるが、不適切なアンテリアガイダンスにより、顎関節に有害作用を及ぼしたり、歯牙の破折およびその歯周組織の破壊を起こしたりすることがある。筆者らは、咬合構成を的確に行ううえで、私たちが認識しておかなければならない基本事項として、アンテリアガイダンスの的確な構成基準を示している。

歯界展望／2012. 5月号

○撮れる!口腔内写真—超基礎~超応用まで—⑤ 写真撮影の前に身につけるべきこと2

(高田光彦 兵庫県・高田歯科)

*本年1月号の「撮れること広がる臨床」で始まったこの連載も本号から、いよいよ実際の撮影の手順やコツの紹介に入った。特に撮影の基本となる口角鉤やミラーの扱い方、撮影者とアシスタントの立ち位置について解説している。スタッフの口腔内写真の規格化やレベルアップにお悩みの先生、またこれから口腔内写真の活用をお考えの先生、本当に基礎から知ってみたいいかがですか?目からウロコの詳しいコツがあるかもしれません。

○インプラント療法の原点を訪ねて 5 治療計画の立案 その1(小宮山弥太郎)

東京都 ブローネンマルク・オッセオインテグレーション・センター

*連載の本文とは別に例の番組の裏事情が、「NHK クローズアップ現代 顛末」と題して1ページ載っている。小宮山先生の感想を読んでみてください。